

令和 3 年 5 月 8 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00481

研究課題名（和文）18世紀の言語表象システムと新たな視覚性の到来

研究課題名（英文）The Language Representation System in the 18th century and the New Visibility

研究代表者

阿尾 安泰（A0, Yasuyoshi）

九州大学・言語文化研究院・特任研究者

研究者番号：10202459

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：18世紀の限定された領域の研究にとどまることなく、この時代全体を貫く認識の枠組みを、領域横断的に明らかにしようとする。その探求を通じて、これまであまり解明されてこなかった啓蒙主義の特性が浮かび上がり、その後続く世紀との相違が従来とは異なる形で明瞭となった。新たな姿で現れた18世紀をそれ以後の時代と比較することで、現代にまで至るプロセスを問い返す契機ともなり、今後の研究に新たな可能性の地平を開いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

18世紀研究を、作家、思想家単位で限定して行うのではなく、時代全体を視野に入れ、そこに働く認識の枠組みを大きく捉えようとした。そのように新しい観点から捉えた18世紀を、それ以後の時代と比較することで、従来見落とされてきた点が明確になり、近代化のプロセスをこれまでとは違う観点から捉えることができるようになった。この検討を通じて、現代にまで至る様々な課題が浮上し、新たな研究の可能性が開かれていった。

研究成果の概要（英文）：I did an interdisciplinary study on the 18th century in France to reconsider the framework of knowledge of the Enlightenment. The analysis of the various works of the 18th century has revealed some characteristics of the age of Enlightenment which were not recognized clearly. The comparison between the 18th century which appears with new aspects and the ages after the 19th century will open new horizons in the study of the French literature and French philosophy.

研究分野：18世紀フランス文学思想

キーワード：18世紀 ルソー 視覚 タブロー 表象

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 逆説的な閉鎖的な状況

18世紀に関する研究が進展していき、個々の作家、作品に関する知識は増していったが、その成果に満足して自らの研究領域の中に閉じこもる傾向が強まった。その結果、他の領域との交流が弱まり、自らの研究を全体の中で位置づけることが少なくなり、方法論を支える枠組みの限界を問い返す契機も失われていった。

(2) 19世紀以後の動きとの関係の切り離し

18世紀への研究に没頭し、各自の限定された研究領域を深めることに主力が注がれ、この時代全体を考える機会が減っていった。この世紀そのものが、それを支える認識の基盤とともに捉え返されなくなるとともに、啓蒙の時代をそれ以後の時期と関係づけて論じようとするものが少なくなっていった。また問題になる場合も、従来の枠組みを繰り返すだけに終わることが多かった。

(3) 現代への視点の欠如

18世紀にこだわるために、それ以降の近代化、そして現代にまで至る過程との関連付けの作業は、ほとんど行われてこなかった。またなされても、単純な進化、発達というパターンで論じることしかできなかった。そのため各時代のもつ独特の認識の構造の分析にまで至れず、十分な比較、検討の作業を行うことができなかった。そして、現代までを射程に含みこんだ問題提起には至れなかった。

2. 研究の目的

(1) 領域横断的探求

領域を限定した上での、研究の深化の可能性を認めながらも、領域横断的な研究を行うことで、18世紀を支える認識の基盤構造を明らかにしようとした。文学作品の分析に、文学的なテキストだけを対象とするのではなく、当時の時局的な文書、さらに医学、科学、政治などの分野に及び多方面の資料の考察を加えることで、時代が共有する知の基盤構造を探求しようとした。

(2) 近代化の問い返し

18世紀の作品群がその個別性の中に安住して位置づけられている状況にたいして、その作品群が依拠している認識の枠組みを問題にした。そして、その分析から想定される、これまでの18世紀研究では十分に明らかにされてこなかった知の総体の姿を探求した。啓蒙の世紀をその特性とともに新たに位置づけることで、別の方式で発展していく19世紀以降の過程をその特徴とともに捉えることができた。その比較を踏まえて、従来の発展史観とは異なる見方を提示した。

(3) 現代への視点

これまでとは異なる18世紀像を提示する中で、直線的な進化のプロセスと見なされてきた近代化の過程に分断の視点を提供した。このように18世紀と19世紀の分断を示唆することで、各世紀のもつ特性が、これまで意識されてこなかった点も含めて、より明確な形で浮かび上がった。こうした問い返しの中で、現代にまで至る近代化の過程がその問題点とともに新たな形で鮮明となった。

3. 研究の方法

(1) 限定的な分析からの脱却

言語表象という問題が、18世紀の文学、思想の分野において、大きな影響を及ぼしてきていることは従来から指摘されてきた。本研究においても、その重要性を認識しながらも、そこに「視覚性」という新たな視点を導入することで、これまでとは異なる研究の地平を開こうとした。具体的には、文学、思想的な文書の分析に、当時のジャーナリズム関連資料、訴訟、捜査文書、科学的な文献などを加えることで、領域横断的な研究を目指した。

(2) 異なる視点からの提示

18世紀を従来とは異なる形で位置づけるとともに、その後の時代との関係も重視した。これまで、18世紀から19世紀にかけての流れは、継承、発展の進化というパターンで説明されることが多かった。しかし、この図式では、その連続性ととられるあまり、18世紀の独自性が消し

去られ、19世紀に継承された部分だけが強調される傾向にあった。そこで、むしろ、18世紀と19世紀の認識の基盤構造における断絶に注目することで、従来の史観を問い返すとともに、各世紀の特徴をより明確に描き出すことに努めた。

(3)問題意識の共有

新たな18世紀像の探求は、その過程においてその後との時代との関係を位置づけなおしていくことになった。そして、その作業と連動して、19世紀、20世紀、21世紀の各世紀も、これまでのような単純な進歩史観に満足することなく、異なる視点を探求するようになっていった。こうして近代化の過程の問い返しが行進する中で、問題意識を共有する各時代との研究者たちと共同作業を行うことになった。

4. 研究成果

(1)論文

「視覚性」と言語表象という視点を組み合わせることで、新たな研究の地平を開くことを目指しながら、論文作成を行った。そこには二つの大きな方向性が見られる。具体的な分析の応用例と18世紀の知の構造に関する思想的な考察である。

前者に属するものとして、ジャン＝ジャック・ルソーと国王ルイ15世暗殺未遂ダミヤン事件との関係をめぐる論考がある。これまでこの両者を結びつける研究はほとんど見られなかったが、訴訟、捜査資料、書簡などの様々な文書を対象とすることで、論理表象システムと視覚性に注目しながら、この両者の間に類似性が見られることを示そうとしたものである。

後者に属するものとして、例えば、「ミシェル・フーコーと18世紀」(『言文論究』42号)がある。フーコーの『言葉と物』に言及して、その鮮やかな言語表象分析を評価しながらも、そこに視覚性と言う視点が欠如していることを指摘した。「タブロー」という概念を導入することでフーコーの図式を拡充することにより、19世紀に関して明確な分析を展開しているジョナサン＝クレリーと問題意識を共有することが可能となることを示した。そして、19世紀において、18世紀とは異なる新たな視覚性が到来し、それが新しい地平を切り開こうとしていることを明らかにした。

(2)学会発表

研究成果は積極的に発表するように努めた。特に国内に留まらず、機会があれば、海外でも発表を行った。2019年7月18日、スコットランドのエジンバラ大学で開催された第15回国際18世紀学会で奥香織氏(明治大学)、馬場朗氏(東京女子大学)とともにセッションを行い、発表した。

論文でも扱ってきた、ジャン＝ジャック・ルソーと国王ルイ15世暗殺未遂ダミヤン事件の関係を巡るテーマで発表を行った。ルソーがほとんど事件に言及していないにも関わらず、この思想家の著作、書簡等を、論理表象システムと視覚性の観点から考察すると、事件が深部において重要な影響を及ぼしていることを指摘した。会場からも有益な指摘を受けることができた。

(3)ワークショップ

研究成果は18世紀研究者たちだけでなく、他の時代の研究者たちにも発信することにした。そうした中で、近代化のプロセスの問い返しという問題意識を共有する研究者たちとのつながりが生まれた。

その成果を示すのが、2020年10月26日に、日本フランス語フランス文学会秋季大会で開催されたワークショップ「分身 その増殖のプロセス」であった。相野毅氏(佐賀大学)、藤田尚志氏(九州産業大学)とともに分身という主題を論じた。このテーマの扱われ方の相違の検討を通じて、従来の近代化の見方の問い返しを行い、新たな視点の提示を目指す作業を行った。このワークショップにおいて、19世紀に現れる新たな視覚性を再確認するとともに、そのパラダイムがデジタル社会の到来とともに、また変容しようとしている可能性についても言及した。

(4)論文集

他の時代の研究者たちと問題意識を共有することにより、論文集に寄稿することが可能となった。2019年刊行の日本シェリー研究センターによる『フランケンシュタインの世紀』に論文「18世紀からみた『フランケンシュタイン』」を寄稿した。世紀を異にし、さらに仏文学、英文学という分野も異にする研究者たちとの交流から得られるところは非常に大きかった。この論文において、18世紀における化学の重要性とその重要性が19世紀において化学から生物学に移行していくことを明らかにした。そして、このパラダイムの変化は科学的な領域に留まらず、政治、経済、社会の分野にも大きな影響を及ぼしており、作者メアリー・シェリーもその動きの中

から作品を書いていることを示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

| | |
|---------------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 阿尾 安泰 | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 ジャン=ジャック・ルソーと国王暗殺未遂ダミヤン事件(4) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 言文論究 | 6. 最初と最後の頁 1-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4377713 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 阿尾 安泰 | 4. 巻 45 |
| 2. 論文標題 ジャン=ジャック・ルソーと国王暗殺未遂ダミヤン事件(3) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 言文論究 | 6. 最初と最後の頁 1-13 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4104139 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 阿尾 安泰 | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 Rousseau et Damiens | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 言文論究 | 6. 最初と最後の頁 1-10 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/2560383 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 阿尾安泰 | 4. 巻 42 |
| 2. 論文標題 ミシェル・フーコーと18世紀 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 言文論究 | 6. 最初と最後の頁 1-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/2534366 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|----------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 阿尾安泰 | 4. 巻 41 |
| 2. 論文標題 ジャン=ジャック・ルソーと国王暗殺未遂事件(2) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 言文論究 | 6. 最初と最後の頁 33-43 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/1959058 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|----------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 阿尾安泰 | 4. 巻 40 |
| 2. 論文標題 ジャン=ジャック・ルソーと国王暗殺未遂事件(1) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 言文論究 | 6. 最初と最後の頁 15-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/1924424 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

[学会発表] 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 阿尾安泰、相野 毅、藤田尚志 |
| 2. 発表標題 分身ーその増殖のプロセス |
| 3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 阿尾 安泰 |
| 2. 発表標題 Les recherches epistemologiques et le theatre francais au XVIIIe siecle |
| 3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 日本シェリー研究センター | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 大阪教育図書 | 5. 総ページ数 180 |
| 3. 書名 フランケンシュタインの世紀 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|